



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『わたしの兄弟である

この最も小さい者の一人にしたのは、
わたしにしてくれたことなのである』

聖書(マタイ福音書25章40節)

牧師 河合裕志

ここで「小さい者」というのはこの世で様々な場面で困っている人、助けを必要としている人達を指している。こうした人々をイエスはわが兄弟と呼び、彼らに親切にした者はわたしイエスにしてくれたことなんだと言う。

だからこういう言い方になる。『お前たちはわたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた』。

このような良い行いをした人は最後、天の国を受け継ぎ、永遠の命に与る者となるよ、とイエスは説く。

イエスは何でこのような教え方をしたのだろう～困窮者とイエスを同一視するような説き方を。こう言えば皆さん喜んで善行に励むようになる、と見たのだろうか。そうかも知れない。今日の前にいる飢えている人がイエスだと思えばすすんで食べ物を差し出すだろう。知らんぷりは難しくなるというもの。問題はそこまで想像力を働かすことができるかどうか、ということ。多くの場合それは困難かも。この飢えている人は飢えている人にしか見えない。この人

の中にイエスが宿っているのか。この人の中に飢えたイエスが動めいているのか。そんなことはとても信じられない。

パウロは「キリストがわたしの内に生きておられるのです」と言った(ガラテヤ書2章20節)。それは素晴らしいこと。パウロ位に聖い人はそうも言うことができるだろう。しかしキリスト・イエスはまさか飢えた人の中にはいないだろう。それはあまりにイエスを引き下げることになるんじゃない?

だが待てよ、そう限定していいかな。イエスはそういう困窮者の中にも入ろうとしているのではないかな。そして共に重荷を負おうとしているのではないかな。私は弱い者の味方だよ、弱い側に身を置くよ、そう言っているのでは?とに角イエスは困っている人を見たら心を開き手を伸べてほしいと全ての人々に願っている。政治家も誰もかも。しかし私達は利己心の固まりだからなかなかそうは行かない。そこでイエスはこんな言い方をする。この私に施すと思って、世話をすると思って、この私に貸すと思って困っている人を助けてほしいと。そしてイエスは援助者に天の国を、永遠の命を与えることを固く約束する。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分

主日夕拝 : 毎日曜日午後6時

子どもの教会 : 毎日曜日午前9時

中高青年会 : 毎日曜日礼拝後

お話し会 : 毎水曜日午後1時～午後7時

お祈り会 : 毎水曜日午前6時、午前10時、午後7時